

はじめに

2020年度、会員の増加と後援会の盛り上がりを目指してスタートしましたが、コロナ禍の影響によりほとんどの活動ができませんでした。

1 会員の加入～拡大・納入～状況

2020年度の会員数は1,099名（新規101名・継続998名）、昨年度に引き続き、会員減少となりました。

各地域・団体選出の幹事、北部の方々や口上林世話人会をはじめ、京都府全域で奮闘いただきましたが、会員数の増加に転じることができませんでした。

背景として、依然として厳しい社会情勢により、「年金暮らしで、会費が払えない等」の声や、高齢化により他界される会員も少なくない現状があります。

加えてコロナ禍の影響により、集まることができず、後援会行事だけではなく社会全体でも外出自粛などにより人と会う機会が奪われる状況が長くありました。

事務局として、数年更新の止まっている会員あてに更新依頼の手紙を丁寧に送付するなどを続けましたが、なかなか結果が見えない状態が続きました。

2 後援会活動

役員が集まり協議する場として、プロジェクトチーム、幹事会、総会がありますが、コロナ禍の影響により、プロジェクトチーム会議1回、総会開催のみとなりました。

今後、Withコロナ社会が続くことを念頭に、効果的に、また多くの方、社会全体（一般の方）への拡大をめざし取り組みをするための工夫が必要です。

3 後援会の宣伝（広報）

各センターでの行事（大文字を見る会、いこいの村まつり、聴言センターまつり等）、地域での集まりなどがコロナ禍の影響により中止となっています。

事務局による後援会ホームページの更新、パンフレット普及、会員およびセンター利用者等に呼びかけを行いました。

4 関係団体との連携

コロナ禍の影響により、後援会活動、関係団体の活動ともに進みませんでした。

口上林世話人会では、これまで通り、いこいの村職員と世話人の方々が一緒に地域の訪問活動を行い、共同の取り組みをしていただきました。

2021 年度 活動方針

(2021/11/20 総会承認)

会員目標 1,300 人

【会員拡大を進めること・新レインボープラン京都の今後】

法人事業の前進とともに歩んできた後援会。活動を通じて理解者を増やし、地域に根差した事業の実現を図ってきました。その歴史からは、単なる「財源の確保」ではない、私たちの求める地域福祉を私たちが創るといふ、後援会活動の原点となるものが受け継がれています。

コロナ禍にあっても、できる事を模索し、工夫しながら取り組みを進めます。後援会として原点を大切にしながら、後援会の主旨に賛同いただく活動こそが、さらなる福祉の発展と確信し、引き続き拡大を目指していきましょう。

【ともに歩み、ともに地域福祉を創る】

会員には年間 4 回発行の『聴言ニュース』が届きますが、会費は購読料ではありません。会費は、私たちの望む福祉の発展＝「新レインボープラン京都」の実現にすべてつながっていきます。そのために法人事業に活用し共に進めていることを再度確認しましょう。

会員の減少に歯止めがかかりません。コロナ禍の現状を踏まえて、いままでの拡大の方法や活動を一旦白紙にし、新しい形を作っていきます。

1 会員拡大について

- (1) 各団体・ブロック毎に目標を定め、合計で会員拡大 1300 名
(団体 1000 名+職員 300 名)

【地域ごとの目標】※職員を除いています

地域	京都市内	北部	口丹	乙訓	山城	他府県
会員数	450	350	50	50	100	0

⇒現行の目標の有り方を見直し、目標達成の具体策を協議していきます。

- (2) 「新レインボープラン京都」が 2021 年度で区切りを迎えます。新しい計画策定（仮称：レインボー3）に向けて、「京都聴覚言語障害者の豊かな暮らしを築くネットワーク（以下：府ネット）」との共同の取り組み強化を進めます。
- (3) 後援会員の皆様に会員証を発行します。会員証を提示することで会員として特典が得られます。特典について、周知がされておらずほとんど利用が無いので、見直しを行い、再度会員への周知と利用を促します。
- (4) コロナ禍の影響により、対面での会員拡大、集合しての学習会やつどい

ができない状況が続いています。しっかりと感染予防をしながら会員の拡大の活動を続けていきます。

2 会員交流の取り組み ※コロナ状況を判断しながらの実施となります。

- (1) 法人事業を知る機会として、法人主催行事に後援会も共に取り組みます。
- (2) 各地域で開催される行事へのバザー出店を行います。
- (3) 会員同士の交流・新規会員の拡大に繋がる企画を実施します。

3 法人後援会活動

(1) 法人（事務局・理事）と幹事会代表による

【プロジェクトチーム】を継続し、後援会の有り方、拡大方針、寄付、一般のあらゆる「応援団」開拓等を進めます。

- (2) 新レインボープラン京都の実現、次期レインボープラン（仮称レインボー3）の策定をめざして組織の拡大と取り組みを強化します。
- (3) 幹事、各地域・団体・事務局との連携に努め、活動を充実させます。
 - ア 会員や会費納入状況について、的確な把握につとめます。
 - イ 自動引き落としによる会費納入の拡大をしていきます。
- (4) 絆を大切にし、後援会の活動として生活の中での助け合うボランティアの取り組みについて協議し、実行します。

4 後援会活動の業務委託（京都聴覚言語障害者福祉協会への業務委託）

引き続き法人へ業務委託により、後援会業務の的確・円滑な実施に努めます。

5 関係団体との連携

- (1) 府ネットと法人との連携をいっそう強化します。
- (2) どなたでも利用いただける「寄付」の仕組みを導入し、府ネットと連携し多くの寄付者を募ります。
- (3) 関係団体の発行する機関誌等を通して、後援会の呼びかけを行います。